

平成 25 年 12 月 27 日

一般財団法人太田総合病院 太田西ノ内病院

## 1. 施設の概要

所在地：福島県郡山市西ノ内 2 丁目 5 番 20 号

病床数：1,080 床

一般病床：1,030 床

（うち ICU:40 床、SICU:6 床、NICU12 床、GCU18 床）

精神病床：50 床

病院HP：<http://www.ohita-hp.or.jp>



## 2. 地域及び施設の特徴

太田西ノ内病院が属する県中医療圏は、福島県の中央部に位置し 3 市（郡山市、須賀川市、田村市）、6 町（鏡石町、石川町、浅川町、古殿町、三春町、小野町）、3 村（天栄村、玉川村、平田村）で構成されている。当該医療圏の人口は約 55 万人で福島県の 2 次医療圏の中で最も人口が多い圏域となっている。

同施設は、救命救急センター・地域周産期母子医療センター・基幹型臨床研修病院・地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院等の認定を受けており、地域の中核病院としての役割を担っている。

## 3. 事業計画及び資金計画

### （1）事業計画

平成 25 年に機構の融資により実施した一般病院の改築計画は次のとおり。

- ① 外来スペースの拡張による診察室の増室とプライバシーに配慮した完全個室化を実現
- ② 個室病棟の新設（15 床）とアメニティの向上
- ③ SICU（外科系集中治療室）6 床の新設
- ④ 地域周産期母子医療センターの機能を充実

これらの整備を図ることによって地域の中核病院として、さらなる機能強化を目指すものであった。

## (2) 資金計画

建築資金（設計監理料含む）	1,176,434 千円
機構借入金	940,000 千円
増築面積	4,700.76 m <sup>2</sup>

### 4. 施設整備におけるポイント

#### ① 外来スペースの拡張

診察室の増室を図りつつ待合スペースも確保し、ゆとりある空間を実現した。

1・2階は、外来部門となり診察室、処置室、観察室、内視鏡室を増設し、さらに1階部分には、院外から直接入室できる感染症外来待合室を設置した。今回増築した部分の診察室は、35室だが、

診察室全体としては、81室から100室となり19室増加している。



拡張により広さを感じる外来スペース

#### ② アメニティの向上を図った個室

患者様から個室病床を利用したいという要望が多く寄せられたため、トイレ・シャワー室・インターネット環境を完備した個室を新設した。また、この病棟は混合病棟で全科の疾患に対応が可能となるよう配慮した。



充実したアメニティの個室病床

#### ③ 既存棟にある手術室・ICU等とSICUをほぼ直結する病床の配置

重症疾患により手術後も様態の急変するリスクを抱えた患者様を、集中管理できる設備を整備し、質の高い医療を提供するために効率的な動線を実現し、様態の重症化を未然に防止できるように配慮した。

④ 地域周産期母子医療センターの設置によるNICU、GCUの狭隘化解消と増床及び分娩室の整備

NICU(新生児集中治療室)を6床から12床へ、GCU(新生児治療回復室)を14床から18床へ増床することにより、より多くの未熟児に対応可能とした。



NICU (新生児集中治療室)

#### 5. 施設整備による病院機能の向上

外来スペースの拡張により、外来患者 1,600 人／日以上を受診が可能となっている。患者様の多様な疾患に応えるため、多くの診療科を備えている総合病院がこの地域には必要と考えている。特に高齢の患者様は、外来受診時に複数科受診する傾向があるため、当院は地域の医療提供状況の特徴を踏まえて、可能な限り多様な診療科目を提供できるように配慮している。

また、地域周産期母子医療センターの機能充実により、ハイリスクの妊産婦の受入れやより多くの未熟児への対応がさらに可能となったことが挙げられる。

スタッフからは、外来スペースの拡張及び病棟の拡充により働きやすくなったとの意見があり、患者様だけではなく職員の満足度が向上し、就労に関するモチベーションの向上にもつながっている。

#### 6. 今後の課題

今回の増築により、増築棟へ移設した後の既存部分の有効活用が検討事項である。

東日本大震災の影響について現段階では落ち着いてきたが、災害拠点病院として今後も役割を発揮し地域の中核医療機関としての責任を果たしていけるよう努めたい。

以上